預かり保育に関する補助額試算表（案）の入力方法等について

１　「預かり保育に関する補助額試算入力表」の入力手順

（１）試算入力表の入力方法

　①入力前の確認事項

　・教育時間終了後、早朝、春期休暇中、夏期休暇中、冬期休暇中、休日（土日祝）の各区分について、1日当たり平均預かり園児数、預かり実施日数、預かり実施時間を確認。

　・長時間の預かり保育を継続的に必要とする園児の定員を定める（資料２　２（４）補助要件④を参照）。

　・スポット利用（長時間の預かり保育が継続的に必要でない園児）は、実施日により利用園児数が大きく異なるため、「スポット利用の1日当たりの平均的な預かり園児数＝1日当たり平均預かり園児数－長時間の預かり保育を継続的に必要とする園児の定員」とする。

②試算入力表への入力項目

・試算入力表の黄色セルに以下の（i）～（iii）の項目を入力すると、「預かり保育に関する補助額試算結果（案）」に補助額が自動的に算出される。

・長時間の預かり保育（都上乗せあり）とスポット利用（都上乗せなし）とで試算方法が異なるため、それぞれ**「試算入力表（長時間預かり）」**、**「試算入力表（スポット利用）」**に入力。

【試算入力表（長時間預かり）に入力する項目】

（i）教育時間終了後の欄の「教育時間」（※教育時間を含めた開所時間で加算を判定）

（ii）早朝、春期休暇中、夏期休暇中、冬期休暇中、休日の「預かり実施時間」及び「預かり実施日数」

　　（預かり実施日数は、長時間の預かり保育とスポット利用共通とする）

（iii）長時間の預かり保育を継続的に必要とする園児の定員（詳細は（２）を参照）

　【試算入力表（スポット利用）に入力する項目】

（i）早朝、春期休暇中、夏期休暇中、冬期休暇中、休日の「預かり実施時間」

（ii）①で算出したスポット利用の1日当たりの平均的な預かり園児数（詳細は（２）を参照）

（２）預かり園児数の考え方

　①長時間の預かり保育を継続的に必要とする園児

　・設定定員まで利用申込みがあり、年間を通じて継続的に実施するものと仮定。

⇒**長時間預かり利用園児数＝長時間預かりの定員、年間延べ園児数＝長時間預かりの定員×実施日数**

・利用内容に応じて、「利用時間9時間」～「11時間」の欄に定員を入力。

例）9時間利用の園児は、平日、春期休暇中、夏期休暇中、冬期休暇中の全ての期間において、9時間利用していると仮定し、「利用時間9時間」の欄に該当する定員を入力。

・早朝保育の欄には、早朝保育の定員を入力。試算を簡素化するため、教育時間及び教育時間終了後の預かり保育と合わせて、9時間利用していると仮定。

※長時間の預かり保育を継続的に必要とする園児は、全員利用時間が9時間以上のため、一時預かり事業（幼稚園型）の長時間加算及び都の上乗せ補助の対象である。

②スポット利用

・利用時間に応じて、「利用時間8時間」～「11時間」の欄に「スポット利用の1日当たりの平均的な預かり園児数」を入力。

※スポット利用の園児は、利用時間に応じて、一時預かり事業（幼稚園型）の長時間加算の対象となるが、都の上乗せ補助の対象とはならない。

２　私立幼稚園等一時預かり事業費補助の拡充による補助額の試算例

参考として、以下のような預かり保育を実施する幼稚園を例に、試算を行う。

（１）預かり保育実施状況

・幼稚園の教育時間は9時～14時で、最大20時までの預かり保育を実施。

・長時間預かりの定員を20人と定める（内訳は、9時間の利用が10人、10時間の利用が5人、11時間の利用が5人）。

・早朝1時間預かる園児の定員は5人で、8時～17時の9時間利用している。

・1日当たり平均預かり園児数は40人で、長時間預かりの定員の他に、平均20人が17時までスポットで預かり保育を利用している（内訳は、8時間までの利用が10人、9時間の利用が5人、10時間の利用が3人、11時間の利用が2人）。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 預かり実施時間 | 日数 | 1日当たり平均預かり園児数 | 長時間預かりの定員 | 1日当たりスポット利用園児数 |
| ア　教育時間終了後 | 14時～20時 | 185日 | 40人 | 20人 | 20人 |
| イ　早朝 | 8時～9時 | 185日 | 5人 | 5人 | 0人 |
| ウ　春期休暇中 | 9時～20時 | 8日 | 40人 | 20人 | 20人 |
| エ　夏期休暇中 | 9時～20時 | 21日 | 40人 | 20人 | 20人 |
| オ　冬期休暇中 | 9時～20時 | 6日 | 40人 | 20人 | 20人 |
| カ　休日（土日祝） | 実施せず | 0日 | 0人 | 0人 | 0人 |

（２）各区分の試算結果

【長時間預かり分】

ア　教育時間終了後

・基本分

長時間預かりの定員20人×実施日数185日×単価400円＝1,480,000円

・長時間加算①（9時間以上10時間未満利用）

長時間預かりの定員10人×実施日数185日×単価100円＝185,000円

・長時間加算②（10時間以上11時間未満利用）

長時間預かりの定員5人×実施日数185日×単価200円＝185,000円

・長時間加算③（11時間以上利用）

長時間預かりの定員5人×実施日数185日×単価300円＝277,500円

**・上乗せ補助**

**長時間預かりの定員20人（※１）×実施日数185日×単価500円＝1,850,000円**

**※１　長時間加算①10人＋②5人＋③5人＝20人に上乗せ。**

イ　早朝

・長時間加算①（9時間以上10時間未満利用）

長時間預かりの定員5人×実施日数185日×100円（※２）＝92,500円

※２　早朝1時間預かる園児は、早朝、教育時間、教育時間終了後の預かり保育を合わせて9時間利用している。9時～17時の8時間分は、「ア　教育時間終了後」の基本分で既に算出しているため、ここでは残りの8時～9時の1時間分について、長時間加算①100円分を加算する。

**・上乗せ補助**

**長時間預かりの定員5人（※３）×実施日数185人×500円＝462,500円**

**※３　早朝預かる園児は全員、長時間加算①の対象となるため、5人に上乗せ。**

ウ　春期休暇中

・基本分

長時間預かりの定員20人×実施日数8日×単価400円＝64,000円

・長時間加算①（9時間以上10時間未満利用）

長時間預かりの定員10人×実施日数8日×単価100円＝8,000円

・長時間加算②（10時間以上11時間未満利用）

長時間預かりの定員5人×実施日数8日×単価200円＝8,000円

・長時間加算③（11時間以上利用）

長時間預かりの定員5人×実施日数8日×単価300円＝12,000円

**・上乗せ補助**

**長時間預かりの定員20人（※４）×実施日数8日×単価500円＝80,000円**

**※４　長時間加算①10人＋②5人＋③5人＝20人に上乗せ。**

エ　夏期休暇中、オ　冬期休暇中についても、ウ　春期休暇中と同様に算出。

【スポット利用分】

ア　教育時間終了後

・基本分

1日当たり20人×実施日数185日×単価400円＝1,480,000円

・長時間加算①（9時間以上10時間未満利用）

1日当たり5人×実施日数185日×単価100円＝92,500円

・長時間加算②（10時間以上11時間未満利用）

1日当たり3人×実施日数185日×単価200円＝111,000円

・長時間加算③（11時間以上利用）

1日当たり2人×実施日数185日×単価300円＝111,000円

イ～カについても、アと同様に算出。

長時間預かり分、スポット利用分の両方について、ア～カ全ての区分を合計する。

ア　教育時間終了後5,772,000円

＋イ　早朝555,000円

＝　**7,419,000円**

　　うち都　　4,247,500円

　　区市町村　1,585,000円

＋ウ　春期休暇中249,600円

＋エ　夏期休暇中655,200円

＋オ　冬期休暇中187,200円

＋カ　休日0円

３　≪参考≫　試算例の幼稚園が私立幼稚園預かり保育推進補助を利用する場合の補助額

・試算例の幼稚園は、教育時間終了後3時間以上の預かり保育を開園日（195日とする。）の9割以上の185日実施、春期8日以上、夏期21日以上及び冬期6日以上実施の要件を満たす。

→下記　**補助単価③**（要綱第６の３）を適用。

平均預かり園児数は、教育時間終了後及び長期休暇中が40人、早朝が5人。

補助単価①（教育時間終了後、早朝、春期、夏期、冬期のいずれかを実施の場合）



補助単価②（教育時間終了後3時間以上、春期、夏期、冬期の区分全てを実施の場合）



補助単価③（補助単価②の要件に加え教育時間終了後3時間以上の預かり保育を開園日の9割以上実施、春期8日以上、夏期21日以上及び冬期6日以上実施の要件を満たす場合）



ア　教育時間終了後2時間1,200,000円

＋ア　教育時間終了後3時間以上2,520,000円（630,000円×上限4時間）

＋イ　早朝200,000円

＋ウ　春期休暇中360,000円

＝　**5,300,000円**

＋エ　夏期休暇中660,000円

＋オ　冬期休暇中360,000円